

## 那珂市議会 議員定数等調査特別委員会記録

開催日時 平成26年10月9日(木) 午前10時

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 加藤 直行 副委員長 中崎 政長  
委員 寺門 厚 議員 小宅 清史  
委員 綿引 孝光 委員 木野 広宣  
委員 笹島 猛 委員 石川 利秋

欠席委員 委員 木村 静枝

職務のため出席した者の職氏名

議長 助川 則夫 事務局長 城宝 信保  
事務局次長 深谷 忍 次長補佐 渡辺 荘一

会議事件説明ため出席者の職氏名

なし

会議に付した事件と結果

### (1) 議員報酬について

結果：議員報酬について意見交換を実施。集約には至らず。

会議資料 別添のとおり

議事の経過 (出席者の発言内容は以下のとおり)

開会 (午前10時)

委員長 おはようございます。先日の台風18号、大変全国的な被害には被害があって、本市では多少の被害はあったようですが、無事、なんていうんですか。がけ崩れが1件あったと言うような話聞いておりますが、大した被害がなくて幸いだと思っております。

ただいまより、議員定数等調査特別委員会を開会したいと思います。よろしく申し上げます。

会議は公開しており、傍聴を可能とします。また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送します。会議内での発言は、必ずマイクを利用してください。発言は、簡潔、かつ明瞭に、わかりやすくお願いします。携帯電話をお持ちの方は必ず電源をお切りください。または、マナーモードにしてください。

ただいまの出席委員は8名であります。欠席委員は木村委員の1名であります。定足数に達しておりますので、これより、議員定数等調査特別委員会を開会します。

職務のため、議長。

議会事務局より、局長、事務局次長、次長補佐が出席をしております。

議長より、ごあいさつをお願いいたします。

議長 あらためまして、おはようございます。閉会中ではありますが、議員定数等調査特別委

員会を開催いただきまして大変ご苦勞さまでございます。

ただいまも委員長の方からお話がありましたように、先日の台風の襲来に伴いましての被害が心配されたわけではありますが、大きな人命にかかわるような被害がなかったということで安心しておるところでございます。さらにまた予報ですと、19号が発生しているという状況下の中で、我々も執行部とともに、緊張感を持った活動をしなければならないというふうに感じておるところでございます。

どうぞ、本日の審議に関しましても、慎重なご審議を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつにかえさせていただきます。たいへんご苦勞さまです。

委員長 ありがとうございます。それでは議員報酬についてでございますが、議員報酬に入る前に、公聴会の開催と、公述人の募集の回覧について実施するかどうかご意見をいただきたいと思っております。

次長補佐 それではちょっと資料のご説明をさせていただきます。資料のほうは次第書の後ろについております。今までの審議概要について、ということでちょっとお聞きいただきたいと思っております。こちらについては、今まで特別委員会のほうで審議をしましりました概要についてまとめてございます。

まず議員定数でございますけれども、審議概要でございます。議員定数については、地方分権や議員制度改革などによりまして、自治法が改正され、現在は各地方自治体がですね、任意に定数を定めることになっております。それで現在ですね、地方自治体の裁量によって議員数を定めることになっておりまして、さまざまな意見を反映した議員定数となっているところでございます。

近年の議員定数の傾向としては、さまざまな議論はございますが、定数を削減するという流れが現在の趨勢になっているということでございます。

それから、今まで委員会の中で、お話し合いの中で出たご意見でございますけれども、具体的な議員定数の集約にはまだ至っておりませんが、定数に対する意見としまして、現状維持、2名減、4名減、7名減などの意見が出されております。今後は、公聴会などの意見を聞いた上で、意見の集約をしていくことと思われまます。

それから、②として公聴会でございますが、このあいだの特別委員会で公聴会の決定をいただきました。それで公聴会の概要でございますが、11月16日、日曜日に10時からこの全員協議会で行うということでございます。それから、公述人の公募については、議員定数、議員報酬について公募している状況でございます。

その告知でございますけれども、まず、お知らせ版に、26年9月25日発行のお知らせ版に掲載しております。このお知らせ版については、現在回覧で回っているところかなという感じがいたします。

それから、ポスターの掲示でございますけれども、委員長にお話をいたしまして市の公共施設34施設にですね。小中学校とか幼稚園とか、そういう部分も含んで34施設でござい

ますけども、今週の頭に、配布依頼をいたしまして、お配りをしてあります。ポスターについて前の委員長の後ろにありますような形の2枚を公共施設の方にお願ひしまして掲示をお願ひしております。

それから、今後の予定でございますけれども、この前にですね、現在のところその公述人の公募をしておるところですが、ホームページ等にも掲載をしております。ですが、今のところを公述人として発言をするという方ですね、申し出ている方はいらっしゃいません。そこでですね、今、委員長の方から先にお話がありましたように、さらに回覧等で文章を配布いたしまして、もうちょっと告知とか、啓発をしていきたいというふうに考えております。その文章については、その後ろのページをちょっとお開きいただきたいんですけど、3ページ4ページに両面刷りで公聴会とその後ろに公聴会の発言者募集というようなポスターと同じ内容の資料でございますが、こういった内容で、回覧をですね、各自治会等にですね、回覧をお願ひいたしまして、配布してはどうかということを、今、委員長がお話ししましたように、ちょっとご検討していただきたいなというふうに考えております。

それから、今後の予定でございますが、また前に戻りまして、公述人について選定をしなければなりませんので、その特別委員会について、11月5日を予定しております。この場ですね、出てきた公述人の内容とか発言内容等を検討いたしまして、人数とか発言者についてを決定していくという形で考えております。

以上、ここまで前段として説明をさせていただきます。以上でございます。

委員長 ただいま、渡辺補佐の方から、公聴会についての説明がありました。まず、現在までは、いないということで、各戸に回覧を回すと、回したいということなんです。これに対してはどうでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

委員長 早速、後ろのような資料を回覧するという事に決定したいと思います。これについてですね、公聴会についての皆様がたのご意見もお伺いしたいと思います。例えば、これ公述人が、賛成5人、反対5人というようなことで、予定しておりますが、いなかった場合はどうしましょう。ご意見を、いなかった場合、最悪の場合は。

笹島委員 だれか知り合いの人を呼んだらいい、知り合いの人。

委員長 知り合いにお願ひすると。それも一つの方法かと思いますが、このバランス的にね、報酬何だ、アップ賛成、反対もいなければね。公聴会なんだから、これはまだ、締め切ったわけではないし、今、各戸にお知らせ版が回っている時期でございますので、いなかったらとか、多すぎたらという話ではないんですが、もう少し様子を見て、実施すると。あくまでも、回覧を回して、そういうことで、いかがでしょうか。はい、じゃ、そのように、決定をしたいと思ひます。

それではですね、次に入りたいと思ひますが、議員報酬について議題とします。

まず、議員報酬と政務活動費の見直しについて、皆様のご意見を伺いたいと思いますが、その前に、事務局から説明を、この資料がありますので、資料に基づいて、説明をさせます。

次長補佐 はい、それでは資料についてご説明させていただきます。

先ほどの今までの審議概要についてというものの裏側をお開きいただきたいんですけども、議員報酬についてということで資料が作成してあります。議員報酬につきましては、現状ということで書いてありますが、これは4月の特別委員会の中で報告した資料を一部修正したものになっております。4月の時点ではですね、24年度までの全国のデータしかございませんでしたので、7月に25年度の全国議長会のデータが出ましたので、それをつけ加えた表になっております。1番最後に25年度でございますが、表の1番右がですね、25年度で、やはりですね、年々、24年度と比較いたしまして、議長、副議長、議員ともですね、報酬の金額の平均は減っているというような状況でございます。平成17年の合併以降ですね、若干、18年度上がって19年度下がって20年度また上がって、ほとんど横ばいではございましたが、近年は、若干減少傾向になっているというような状況でございます。

それから②の課題といたしまして、当市の現在の議員の報酬については、平成8年4月に改定したものでございます。それから議員報酬の算出方法については、あくまでも算出の根拠というのがないためですね、各自治体の方で任意に定めているという状況でございます。それから議員報酬を見直す場合には定数改正と同じように、議会としては市民の意見を傾聴し、市民に説明責任を果たしていくことが大切であるということでございます。それから報酬を考える場合にはですね、政務活動費も同じような報酬とみなされている部分もございまして、合わせて考えていく必要があるということでございます。

それから、本日はですね、論点といたしまして報酬額について皆様のご意見をいただいてどうしたいか、増額とか現状維持とか減額とか、そういうご意見をいただきたいということでございます。それから、あわせて政務活動費についても、現在いろいろなマスコミ等でも話題になっておりますので、用途とか、金額の増減などについても、ご意見をいただければと思います。

それで、変更する場合がございますが、あくまでもその市民等に説明していかなければなりませんので、ある程度の理由説明、算出の根拠等は示していくことが必要ではないかということでございます。

それから、その下の表でございますが、まず定数についてご意見が出されましたので、その定数を削減した場合ですね、市の現在の議会費の予算がございまして、例えばですね、現在の議会の人件費を変えないで、そのまま人数を減らした場合に、それを1人の議員に対して幾らまで引き上げることが可能かということをお示ししたのがその表でございます。

現状は22人でございまして、その下にあります22の下にありますような数字でござい

ます。議長と副議長の金額が間違ってますね。失礼いたしました。議長が41万4,000円で、副議長が36万3,000円、議員が34万5,000円ということでございます。それから20人になりますと、2人減るということでその削減額としては約1,062万円ですか、削減できるということで、これを20人の議員に分けた場合は、1人当たり3万4,500円が増額できるということでございます。あとは18人、15も同じくですね、18人の場合はその削減分を18人でわりますと、7万6,500円程度が増額できる。15人の場合は、1人当たりになると16万1,000円増額になるということでございます。この金額については、期末手当等も含めて勘案した金額でございますので、そうすると総額的に人件費が変わらないということでございます。あくまでも想定の数値でございます。

それから別の資料でございますけれども、冊子になっています、市議会議員報酬に関する調査結果というのがあります。これ全国の市議会議長会の資料でございますが、前回4月にお分けしたのが24年の議員報酬のデータでございますので、こちらは25年度の議員報酬のデータということで、新たにできましたのでお配りしていきたいと思っております。先ほども言いましたように、全国平均でもですね、議員報酬については、減少しているというような傾向にございますということでございます。後ろの方に全国の北海道から沖縄までの議員報酬の月額報酬とか、期末手当の率が書いてございます。

それから別の資料でございますけれども、まず茨城県内の議員報酬等の状況っていうA3版の大きな紙の資料があると思っております。これは茨城県内の議員報酬の現状をお示した表でございます。それで、上から水戸からですね、人口の多い順に並んでおります。前回お渡しした資料と比べまして、これに市長、副市長、教育長の給料月額をそこに掲載して、比較できるような形にいたしました。やはり人口が多い部分とか、あとは人口の隣に24年度の歳出の決算額がありますけれども、財政の大きい、規模の大きい団体の方が比較的報酬が高いというふうな形になっております。県内では、水戸が1番高くて議長が70万、副議長が63万、議員が59万。1番市議会として低いのが鉾田市でございます。鉾田市については、議長が30万5,000円、副議長が25万円、議員が24万円ということになってございます。

それからの右側のほうには期末手当の率でございます。これも以前ご説明しましたように、報酬の額はそれぞればらばらでございますが、期末手当の額もですね、大体6月の支給率と12月の支給率というのは、6月が140と書いてありますけれども100分の140なんで、1.4倍ということですね。あと12月についても、大体155と書いてありますので、100分の155ということで、報酬額の1.55倍ということで期末手当の支給額が決定されております。その隣の隣に加算率というのがあるんですけども、これは期末手当を支払う場合にですね、基本の議員の月額の報酬に、15と書いてあれば、15%プラスした額に期末手当の加算率ですね、期間率ですね、6月でしたらば1.4を掛けるということで、割り増ししているというようなのが加算率ということでございます。

この加算率を見てみますと、水戸市が1番高く45ということになっておりまして、低

いところでも、15ですね、最低15ですね。ということで、水戸市は報酬が高い、しかもその加算率が高いということで、期末手当の支給額もすごく多くなるというような、これという、計算するとそういうことになります。その1番右側から2番目ですね。議員の報酬年額というのがございますけれども、やはり水戸市の議員、これ一般の議員の報酬の年額でございますが、普通の議員で964万ということでございます。やはり1番低い銚田市が369万4,000円ということで、2倍以上のですね、格差がついているということでございます。

それからあわせて1番右側にその政務活動費の年額が出ておりますので、これらを加算しますと、水戸市が1番もらって、その水戸市とそれ以外の市町村では、ずいぶんその開きがあるというふうなことでございます。

それから、その次に、別な表がございまして、今度は茨城県内の市議会議員の議員定数の状況ということで、別のA3版の1枚の紙がございまして、こちらについても議員定数が最近ですね、変更になったところがございましたので、それについて、内容を書いたものでございます。

議員定数がですね、今度の選挙あたりから、ことしの8月以降、議員定数を変更したというのが、ちょっと黒く網かけになっているところでございまして、笠間市がですね、26年12月の選挙から22人にするということで2名減。それから、坂東市も12月に選挙がございまして、2名減して20人。あとは太田市は8月に選挙がありました。あとは稲敷市ですね、稲敷も、ことしの12月に選挙が行われますが、2名減ということで20名。常陸大宮については、大宮が8月ですね。桜川が4名減ということで18名ということで9月に選挙をしたということでございます。これが新しい議員定数の状況でございます。

それからまた、別の資料でございまして、今度はその全国的にですね、その報酬を増やした団体とか、減らした団体はどの程度あるかというような資料でございまして、その後ろに上にピンクの蛍光ペンでちょっと印をつけた資料があると思うんですけども、こちらが24年と25年の報酬額を比較しまして、増額になっている団体でございまして、全国で812市ございまして、その中で33団体が増額をしているということでございます。表の見方でございまして、ここに書いてある議員の報酬については全部25年度の報酬でございまして、これは25年度の真ん中からちょっと右側ですね。議長、副議長、議員となっておりますが、これが月額報酬を増額した金額というふうになっております。ですからその25年度という右側の議長、副議長、議員の報酬額については、これが加算された金額ということになっております。それで、最高月額上げたところがこの中で、埼玉県さいたま市ですね、議長で10万2,000円上げて、副議長で9万1,000円、議員で8万5,000円上げたということでございます。あとはそれ以下の増減でございまして。

それから、議長、副議長、議員で三角印になっているところがあるんですけども、議員の報酬は28番の和歌山県の紀の川市ですね。議員の報酬については、削減したんですけ

れども、その隣に6月、12月、年とあります。これはボーナスの率を上げてありますので、月額を減らしたけども、ボーナスの支給率をふやしたので、最終的には年収額が増えているというふうな形のこれは増額の方法っていうか、手法をとったということでございます。

あとはそのですね、議員の月額報酬を上げているところと、あとはその今言ったように、ボーナスの支給率を上げて報酬を増加しているというふうな、増加しているというふうな現状でございます。

それから次にですね、次の資料では、やはり報酬を減額してる団体でございますけれども、上がちょっと黄色い蛍光ペンで書いてある報酬の減額団体でございますが、これについては全国で3枚に渡りまして、150団体が、全国では議員報酬等について減額をしているというような現状でございます。青森県からですね、沖縄まで、それぞれ150の団体で減らしておりまして、これについても、やり方としては月額を減らしているところ、あとは期末手当ですね、ボーナスについて減らして減額しているところと、やり方等は、さまざまなやり方で減額というふうになっております。ということで全国的には削減をしている団体が多いというような状況となっております。説明については以上でございます。

委員長 ただいま補佐の方から、詳しく説明をいただきまして、ここで、委員の皆様方より報酬あるいは政務活動費についての意見交換っていうか意見をお伺いしたいと思います。

笹島委員 これからだんだんね、人口減少になってくるんですよ。やはりその議会運営費用っていうんですか。私もちょっと試算してみたんですけど、議会運営の一般予算は2億2,000万くらいでしたか。大体それ人口割すると5万3,000人、大体、1人当たり4,000円くらいなんですね。人口が非常に少ないとこ、4,000とか1万とかって、これも1人当たり5万とか7万とか10万とか、非常に厳しい。そんでやっても、運営していかなきゃいけない。何が言いたいかっていうと、これからどんどん人口減少化していくと思うんですよ。那珂市も、怠らず今5万3,000ですけど5万を切っちゃうかもしれない、本来だったら本当もつとね、前に、この近隣の市町村のひたちなか市とか東海とかね、大宮とか太田とかは、そのまわり見ると、非常に低いんですよ、正直言ってね、報酬がね。やはり今上げとかないとまず一つ。そんでもっても、なり手不足なんですよ、議会がね。いろいろ不祥事があつたでしょう。議員の質も低下してんじゃないかっていう、そういうことで、もつとやっぱり議員のなり手がないと、そうするといろんな市町村で、無投票選挙がどんどんどんどん行われてくる。ましてこの県北なんかは、そういう県南とかとか違って新しい人たちが入ってこないんですよ。ここの那珂だって、若い人がどんどんどんどんよそに行ってしまう時代。そうすると、前は自営業の人はたくさんいたんですけど、今もうほとんどサラリーマンですよ。サラリーマンの人がね、40、50の子育ての時代の人のがね、今言っていた、年収530万で、それで、議員年金も、もう今はもうないんですよ、正直言って。そんなリスクが高い議員にだれがなるかって。年金はどうでしょう。国民年金、国民健康保険、これに入んなきゃいけない、自分らで。厚生年金、厚生保険、社会保険だったら会

社半分負担してくれますよ。もう諸条件ものすごく悪い。また、次の選挙ために、この報酬で貯金をしていかなきゃいけない。だれがこんな議員なんか、なり手がある。これがもう全国的なそういうあれですよ。やはりこれから少しでもやる気があるある若い人がそういうふうになる、なりたいっていう希望を持たせなかったら、もう報酬以外にないんですよ。その生活ができないっていうことが、もうみんな言ってるんですね。ボランティアじゃないですからね、欧米と違ってね。報酬で日本の議会議員はなってるわけですから、そこをやっぱり考えて、やはり、この前の委員会で私言いましたけどもね、最低5万くらい。39万5,000円くらい、月当たりね。

それから、政務活動費というのは、これからは、今言っていた、20名か18名か定数減になると思うんですよ。やはり議員は何やってんだと言われなくするために、少数精鋭で一生懸命議員活動していかなきゃいけない。お金もやはりそれ必要だと。そのためにやはり、調査研究しなきゃいけない政務調査費というのは、私はこのままでいいと思うんですよ。以上です。

委員長 ほかに。

寺門委員 はい、私も値上げという考えを持っております。というのは、今、笹島委員から出ましたようにですね。まずはその後身、後継者が、今の報酬ではだれもなり手がなくてですね、若い人が出てこない。もう既に職業の一つとして考えた場合は、年金もない。それから、社会保険も自分で賄うということになると大変厳しい条件があります。これは、要するにチェック機能としてもいろんな世代の人がいてチェックするのと、それからまた、いろんなその業種から出てきて、チェックをしていくという、望ましい議員の状況だと思います。やはりこれが、今のままでいきますと、崩れていくということで、議会としても市民にやっていけないということにもなりかねないんで、やはり上げるべきだなということがまず一つ。

もう一つは、議員の仕事の量と質、これを考えていかないといけないなということが言えると思います。本会議だけの4回あってですね、定例会がたかだか60日ぐらいと、市民の方々は判断されているかもしれませんが、実際は、我々議員の仕事というのは、日数でいうと、ざっくり言えば、200日近いものがあるんじゃないかなと、これは検証してみなければわかりませんが、やはり仕事量に基づいて、じゃいくらなんだというのが大体出てくるんじゃないかなというふうに言えますですね。これも決して本会議だけの60日だけの仕事ではないんですよ。やはり、それを仕事の量と質、出した上で、じゃいくらですよというのを市民の方に分かっていただければ、その上げる理由というものも納得していただけるんじゃないかなという気がします。

それともう1点は、今やってる仕事と、新たに今度、やっていく仕事というのがありますよね。これを加えて考えなきゃいけないということになりますんで、当然、我々は今度やっていくべき仕事というのは、政策提案ですよ。これは議会基本条例で言ってますけれ



ども、市民の人たちの福祉向上、これをどうやっていくかという。これも仕事の量としては増えていくというふうに言えますんで、もう一つは、その仕事の量が増えるというのと、数を減らして、そのなり手を減らしてですね、チェック、議会としてのチェック機能がですね、維持向上できるかという点がありますんで、これを解消していかなきゃいけないという点からもやっぱり、いろいろ幾つか申し上げましたけれども、総合的にやっぱり上げていく必要があるなというふうに思います。これは報酬だけ上げていいものかということなると決してそうではないんで、あとは定数の問題と非常に密接な関係がありますんでね、議員定数も減らさない、ただ報酬上げろということでは納得していただけないと思いますので、やはり定数減。4名がいいのかどうかはちょっとそれはわかりませんが、あわせて考えていく必要があるというふうに思います。

政務活動費については、先ほど言いましたように、その仕事の量、チェック機能の強化ということになると、やはり現状維持でいくべきだなというふうに思います。以上です。

委員長 ほかにございますか。

木野委員 私もできれば、その現在の報酬をアップする方向で考えております。現状、あの笹島委員も言っていましたけども、ほんとにいろんな部分で、自分も初めて、今回議員になって、いろんなその税金の部分とかをかんがみると、結構出るお金が多くて、自分のところに残る金額が少ないっていうのが改めてわかったんですね。ですから、そういった部分を考えて、本当に、若い人になるのは本当大変だという。うちなんかは私が特に仕事してないもんですから、やっぱり、妻も働いていますので、共働きになるんですね。そういったのを考えて、それでも結構、やっぱり自分のこの報酬に対しても税金というのはものすごく、今まで以上にかかってきている。そういったことを考えると、ほんとにこう、現状の中でやっていくと、自分なんかも、もう50過ぎてますけども、若い30代、40代の人たちが議員になってやっていくのは、本当に大変じゃないかっていうのは思います。

そういったこと考えると、その定数の問題もありますけど、定数を減らして、その分、議員報酬を上げていただくことが、一番いいのかなっていうふうには思います。

ただ、政務活動費に関しましては、やっぱり、この現状で、ほかの水戸とか高いところは100万とか50万とかありますけども、那珂市は那珂市でやっぱりそれなりの今までの金額でずっと皆さんやってらっしゃるので、それは現状維持でやっていけば1番いいんじゃないかと思います。以上です。

委員長 3人の意見が出ましたが、ほかにございますか。これは今日は意見をいただいて、先ほど補佐の方からもありましたが、公聴会が終わったあたりに、終わった時点で、集約したいと、意見の集約ということで、多くの意見をいただいて、これ通常のこうだからこうしろって言って、たとえ委員長であろうと、議長であろうと、その答を、答弁を求めるといふものでないものですから、意見をいただいてそれを集約するというように、なろうかと思うんですが。

意見がなければ、現状と、現状でいいという判断になろうかと思えます。

小宅委員 上げるために減らすという議論。報酬を上げるために定数を減らすっていうふうな議論になってるのかなというふうに感じてるんですけど。私も、そういう感じで今までこの委員会に参加してきたんですけど。先日ちょっと、ある市民の人と話しまして、定数減らして、若い人、報酬を上げて若い人がって言ったって、必ずしもいい議員が当選するというわけではないんだよということを言われまして、確かにそれはそうだとちょっと思ってたんです、私も。つまり、報酬を上げるために議員を減らすっていう選択が果たしてちょっと正しいのかなっていうの、ちょっと今、私、迷っております、先日まではですね、ちょっと減らしてもいいんじゃないかなと思ってたんですけども、ちょっと今それを、私の中で今考えています。つまり、報酬を上げることのために定数を減らすっていうロジックは、ちょっとよろしくないかなっていうのちょっと今、考えてるところです。

寺門委員 私も、数を減らす、それからその報酬を上げ下げするという話があって、それからその定数を減らすとかそういうことではないんですね、考えはね。基本という議員の仕事はなにかということがベースにないと、これは当然、市民の方も納得していただけませんし、それは近隣の市町村で、見直ししたほうがいいよって言われて、単純に上げる下げる、定数を減らす、報酬を上げる下げるということではいけないと思いますね。やはりベースは、今、市民の方が要望している議会の議員の仕事って何かっていうのと、それに応えていくべき役割、機能、これはもう当然、身に付けてちゃんとお応えしていかなきゃいけませんですよ。当然、それは議員の質は上げる必要があります。これは議会として当然やるべきことだと思いますね。その辺の費用も当然、見ておかななくちゃいけないだろうと思います。小宅委員言われたように、確かに、だれになるかそれはわかりませんのでね。少なくともその門戸を広げて、多くの若い人たちが来て、なっていただきたい、なったからには、議会として、教育研修等も充実をしてですね、それは市民の期待にこたえられるような議員として、そういう議会にならなきゃいけないだろうなということで、上げる必要があるんだという判断でございます。以上です。

委員長 小宅委員の意見は、定数を現状、定数、前回ありましたが、現状でいいということなの。

いやこのあいだしたけども、今出た定数の話をついていうけど、定数と議員報酬っていうのは、この特別委員会というのは定数と議員報酬っていうのは一体になってると思うんだよね。今日は、話しないと、前は15人と言いましたが、きょうはその、今日は多い方がいいって言うこと、増が。もとの24人ぐらいのほうが。

私はこう思うんだよね。財政、お金の問題で、定数をふやして、議員報酬も増やすということは、市民からいっても、理解を得られない。だから、方々で、議員定数、議員多いのなんだと、一般的に言われるから、減らして、上げるところもあるし、そのままのところもある。増やして上げるなんていうことは、考えられないと思うんだ。

綿引委員 定数、報酬、あるいは政務活動費も含めて、要は、最終的にできるだけ財政を圧迫しないように、しかも市民の理解が得られるようにということで、我々これ、考えてるわけなんですけども。市民の理解っていうのは、最近の新聞報道で取り上げられてるみたいに、なんだかよくわかんない金の使い方をしたり、ちょっと困ると泣きまねしたりね、ああいう議員さんがいるから、みんな議員ってのはあんなことばかりやってんだっぺと思われちゃうんで、そうじゃなくて、しっかりまじめに、市のために市民のために努力してる議員さんもたくさんいるんだよと。特に、那珂市の議員さんもそうなんだよっていうのを市民がわかってくれば、じゃ、人数もそれぐらいあってもいいだろうし、報酬もそのぐらい払ってあげなくてはいけないねって、いう思いになってくれるんじゃないかなと思うんですよね。だから、その部分を、例えば、開かれた議会をつくるということで、議会報告会であるとか、そういうことで、もっと市民の皆さんに我々議員は、那珂市に貢献してんだよということを理解していただくっていう努力も同時にしなくちゃいけないんじゃないかなって思います。そのために、やっぱりもっとやる気のある若い議員さんにどんどんなってほしいし、別に年寄りが必要だっていうわけではないんですけども、やっぱりその、選挙のたびにもっとね、当選者がたくさんの中から、より優れた人が選ばれるという、そういう姿のやっぱり選挙になるっていうことがやっぱり理想だと思うので、できるだけその財政を圧迫しない範囲で、いわゆるそういう優秀な議員さんを維持していかなければいけないということだと思うんですよね。そのために、報酬をどうするか、あるいは、議員定数をこのままでいいのかということだと思うので、忘れてはいけないのは、やっぱりその市民の理解を得るために、議員活動、我々はこんなふうに頑張ってるんだよっていうのを、もう少しPRすべきではないかと思います。以上です。

小宅委員 はい、つまり、定数を減らして、報酬を上げるといって、いわゆるそれだけ選挙になったときには難しくなる。当選するのは難しくなる。熾烈になるっていうことだと思うんですね。そうすると、果たしてそれが、若い人が出やすい状況なのかと、逆に言うことなんです。要は、なんで定数減らすのはよろしいんだと思うんですけど。報酬は、私の考えとしては、そんなに簡単に上げなくてもいいのかなというふうに思います。

委員長 綿引委員は、市民の理解を得られるようになっていく意見だけど、何ともそれ以上は言わないから聞かないけど。

綿引委員 はい、私としては、やはり報酬は下げる必要はないのではないかなと。この資料の中にもあるとおりであるとするれば、現状維持か、あるいは報酬を増額するか。私はその方向で考えています。

委員長 綿引委員、現状維持か、増額か。それなんだよ。どっちどうなの現状維持なの、意見だから。

綿引委員 市民の理解を得られる方向で増額できればと思ってます。

委員長 増額と。綿引委員、議員報酬は上げるといって、額としたら幾らくらい。理解を得ら

れるっていう前提で。

綿引委員 具体的にここで数字を申し上げるのはちょっと難しいと思います。要するに、812市ある中で、時代の趨勢は減額の方で行ってるよっていう、この資料がございますけども、増額してる団体は33市。報酬を減額してる団体は150市。その差のあらかたの市は、現状維持の方向なのかなと。であれば、手元の資料はそうなってますけれども、やっぱり議員のなり手をもっと増やすと、いうためには、やっぱり報酬を増額すると。月額ではなくて、年額で、できれば最低でも600万ぐらいは払ってもいいのではないかというふうに考えてます。

委員長 それで市民の理解を得られると思ってんだ。600万。

綿引委員 それだけではやっぱり今の市民の理解が得られるとは思ってません。

委員長 今言ったように、全国で150も下がってるわけだ。この資料からいって、上がったのが33、それで600万の増じゃないね、600万にするとということなんだね。年収600万。

綿引委員 報酬はそのぐらいにしてもいいんじゃないかと思ってますっていう意見です。だから、この委員会でも、議員の報酬が決定するわけではないですよ。

委員長 できれば意見集約して、それで、集約できれば、市長に諮問するとか、あるいは、お手盛りになるから、市の方に出してもらおうということで、きちんと意見を出してもらおう。いやあのとき600万とあったんだけど、いいよそれでっていうことでなく、

綿引委員 これは私の見解ですから、あとはやっぱり委員の皆さんの意見を集約して。

委員長 綿引委員のばかりが通るわけでもないし。

綿引委員 集約していただきたいということです。

委員長 はい、いいです。

木野委員 はい、すいません。この参考資料を見てるんですけども、やっぱりこれ見ると、20人の定数のときには、3万4,500円というふうに出ていますので、この辺が妥当じゃないかと私は思います。3万5,000円ぐらいですかね。一気に上げるとなると、あれでしょうから。20人になったら3万4,500円は、上げられるんだよっていう金額出ますので、最低限の中で、だから、3万5,000円ぐらいかなというふうに私は思います。

寺門委員 私も3万から5万というふうには考えていたんですけども、ちょっと詳細は詰めてみないとわからないんですが、最大として5万。

石川委員 議員報酬については、隣接の水戸市、ひたちなか市、太田市、大宮市、その中で那珂市が1番少ないわけですよ。やはり今、笹島委員、木野委員がいわれたようにですね。やはり、この2ページにある参考資料ですか、やはりこの20名の場合が3万4,500円というふうにあるわけですが、18名の場合は、7万6,500円と、やはりこの辺が、この隣接の市町村で1番少ないということなので、やはりそこら検討すべきかなというふうに思っております。以上です。

委員長 石川委員。前回あの、今日は、報酬のことだというような意見もあったけど、これは

連動しているもので、改めてお伺いしたいんですが、定数、前回、ちょっと時間内に、出席、質疑できなかったからお聞きしたいんですが、定数の件については、どのような考えを持っているかお伺いしたいと思います。

石川委員 定数については、常陸大宮市も、常陸太田市、これは22名から20名にされていますんで、最低でも20名ですか。2名減というのは必要かなというふうに思っております。

委員長 定数の件は、ほとんどの方が、定数減、人数は、記載されてありますが、という木村委員が、民意が反映できないと、減らさばかりではというような意見が強くて、強いつていうかそういう意見なもので、現状の22人ということは、はっきり意見として出ました。

石川委員、木村さんはそういう22人と、現状維持という意見でしたということですよ。

委員長 暫時休憩をします。11時5分、再開としたいと思います。

休憩（午前10時55分）

再開（午前11時5分）

委員長 では再開をいたします。

いろいろ意見、出ましたが、さらにですね。確認のために、意見を伺いたいと思います。

1人ずつ、意見をちょうだいしたいと思います。

笹島委員 議員報酬がアップするということだって、なかなか市民の理解が得られないと、これはどこでもそうだと思うんですね、もう1回、じゃ定数削減はどうかって、これは喜びます。私がなんで、議会運営費用を4,000幾らと、要するに、4,000円くらいの負担をいただいていると。よそは本当にね、万単位のところもあるんだよね。それだけご負担をいただいで、それだけ報酬に見合う仕事すればいいということで、要するに、議員定数を削減して行って、市民の理解を得られるということと同時に、やはり若い人たちの門戸を広げて、やはり、水戸市は報酬が100万近く、月、払ってますんで、非常に若い人が、どんどん出てきます。ただ、那珂市っていうのも、なかなかサラリーマンが多い今の時代ですから、そうすると一部の自営を営んでる人たち、ある程度資産のある人しか出て来ない。もしくは、60歳以上の定年退職になって、退職金で、じゃ時間もあるから、暇もあるから、じゃ議員にでもなってみるかという、そういう軽い考えで出られて、若い世代が議員になろうという人がなかなか出てこないというのが現状だと思うんですね。やはり現実を我々直視しなければいけない。財政も先ほど言ったように非常に厳しい時代になってくると思う。やはり、財政を圧迫していくっていうのは、これからだと思うんですね。今じゃなければ、今でしょ、っていうことですね、今、報酬を上げておかなければ、本当にこれから、なり手不足、議会も縮んで来ますよ。だから今がちょうどその過渡期っていうんですか。今はそういうせっぱ詰まった時期だと思うんですね。ですから私は何としても、定数削減と報酬アップということで、定数削減は18名、4名削減の18名。報酬は5万円アップの39万5,000円、これも3回言ってるんですけども、同じこと何回も繰り返します。私はこれで通していきたいと思います。以上です。

綿引委員 先ほども申し上げましたとおり、報酬は大体、常陸太田市並みの600万ぐらいに増額してもよいのではないかなと考えております。定数につきましては、やはり削減すべきかなと考えております。以上です。それから、政務活動費については現状維持でもよろしいのかなと考えております。以上です。

具体的には2名減の、20名でよいかと考えております。

寺門委員 報酬については、私もアップということで、5万円と先ほども申しましたとおりでございます。理由についてはやはり、幅広い方が議員になっていただくということ。特に若い人への門戸を開く意味でも、専門化という職業の一つとして専門でやられる方がどんどん増えてますんで、そちらの方への門戸を開くということですね。一つは仕事、議員としての仕事の量と質から言っても、やっぱり今やってる仕事、これ、データで裏づけを取らないといけませんけれども、年間200日ぐらいだろうと。プラス監視機能強化という、それから政策立案をやっていくということも踏まえて、仕事量が増えるということも考えればですね、どうしてもやっぱり今の報酬ではなくて、アップということが必要なりなるということでございます。

あと政務活動費ですね、これもやっぱり現状維持で必要だなということですね。定数については、これは報酬との密接な絡みがありますので、前回、わたくしは、20名で言ってます。そのときも報酬アップという考えも、たぶん言ってたと思うんですけども、この辺はちょっと精査をしなければわからないんですが、今のところ、その5万円の根拠ということになると、多分18になるのかなという気はしています。

小宅委員 はい、私が前報酬増やすのであれば、議員定数は15まで減らすべきだというふうに言ったんですけども、先ほど言いまして、若干ちょっと、変えまして、報酬は現状維持で、定数も15まで下げずとも、18ぐらいでいくのがよろしいんじゃないかなと。上げるのであれば、むしろ政務調査費の方を私は上げるべきだと思います。以上です。

木野委員 まず、私も報酬の方に関しては、38万から39万ぐらいの金額が妥当かと思います。

ただ、定数に関しては、4年に1回ずつ、2名、2名って今まで下げるのであれば、一気に今回、4名に下げて、そのまま現状維持にしていってほしいと思うので、18でお願いします。

あと政務活動費は現状維持でお願いします。

石川委員 議員定数については、合併前は、那珂市が26名、瓜連が12名というわけで38名だったわけですが、合併して、現在は今、22名。ところが隣接の市ではですね、太田、大宮と、22名から20名にしています。これは、私も20名、2名削減はよろしいんじゃないかなというふうに思っております。

また、報酬についても、先ほども言いましたけれども、隣接の市、水戸市、ひたちなか市、常陸大宮市、常陸太田市、それより1番低い。そういう中ではね、やはり、報酬等については、この参考資料にもありますけれども、最低でも20名、3万4,500円とありますけ

れども、そこいらは必要ではないかなと。

あと政務調査費については、当初、合併する前、美野里でしたっけ、50万でしたよね。那珂市も50万だったですよ。それを24万に削減したわけですね、政務調査費ね。私らもね、一般質問やるたびに原稿資料、コピーしたりなんかっていうと、結構かかりますね、白黒は事務局でコピーしてくれますけど、カラーは本当にそういう中で、参考資料のカラーのコピーとかいろんなのやると、本当にかかっています。ですから、政務調査費も現状で行かないと、議会活動上、支障を来すのかなというふうに思っております。以上です。

委員長 石川委員、定数が20で、報酬はいくら。水戸、ひたちなか、太田と比べても低いというふうに聞いたんだけど、いくら。だから自分でどのような意見かと。

石川委員 先ほどお話したように、この参考資料の2ページにあるような20名というなかで、3万4,500円で書いてありますよね。最低でもそこいらはいいんじゃないのかな、市民の方からもそこいらならば理解できるのかな、していただけるんじゃないかなと思います。

中崎委員 私も、定数は、これ今、石川委員が言われたように、合併時38。それから特別委員会をつくって、26。さらに24、22と下げてきました。やっぱり隣接市町村もね、見ていると、お互いに相手を見ながら、2名、2名ずつ下げてきているのね。やっぱりね、これは一気に下げとくべきだと思いますよ。18ぐらいに。私はそう思います。

それから報酬の件ですけども。どうでしょうねこれ、やっぱり掛率なんか少し変えた方がいいんじゃないかと思うんだよね。給与を一気に3万、4万とか5万とか上げるんじゃなくて、月額報酬は1、2万にしておいて、こそくな手段だつて言われるかもれないけども、見た目は感じいいですよ。そういうわけで、今の綿引さんが言ったように、年額で600ぐらい。このぐらいやないと私も税金払っていると、なんでこんなに健康保険高い、なんでこんなに市民税が高いんだと思うぐらい、びっくりするぐらいとられちゃってますしね。なかなかきついかと思います。

政務調査費の方は、現状でいいんじゃないかと、そういうふうに思っております。以上です。

委員長 議長は、どういうお考えをお持ちですか。

議長 はい、私の立場としては、県北議長会というのがありまして、8市の中で1番、那珂市が報酬に関しては低いという状況下でありますんで、おつき合いは同じにしくちゃならないというような観点もございます。そういうこともありますんで、さらにはまた、人口に関しても、常陸太田市さんとはもう既に人口が逆転しておるといような数字も出ています。そういう中で、財政に関しましてはですね、議会に新たな風を送っていただける、新たな方に、できるだけ塀を低くしてあげて、それで議会の中で、税収増を見込めるような施策をどんどんと新たな考えを吹き込んでいただくという観点から、報酬増に関しては、これはもう時期が当然きちゃってるのかなという感じは持っております。那珂市の場合には、旧那珂町時代に、平成8年以来、16年ですか、18年間か。18年間の報酬増を

やってないんですよ。当然、平成17年の合併のときも、報酬増はしておりませんしというようなことも、市民の皆さん方に、ご説明もできるというようなこと、さらには当然そういった新たな議員となってこられる方が、税収増のそういう施策をどんどんと吹き込んでいただくとともにですね。さらには、むだ等を省くための効率化、そういうのもどんどんと提言いただき、施策に反映していただくということからもですね。数字としては、常陸太田さんと同じぐらいにしてもいいのかなという感じですから、これから言いますと、5万円ぐらいアップですかね、月にしますとっていう感じを持っております。

さらに定数に関しては、当然、市民の皆さん方にも注目を集める、注視されてる大きな問題でありますので、これに関しましては、那珂市さんは、太田、大宮、私らのとこの後追いで同じにしてくるのかな、今度も、っていうようなお話もいただいておりますので、これは、18ぐらいがいいのかなと、逆に、先行していくべきかなという感じを持っております。そういう観点から、私の個人的な考えとして、申し述べさせていただきます。以上です。

委員長 私の、皆さんの意見をお聞きしたわけでございますので、私の意見なんです、平成8年に最後上げたということなんでございますが、振り返れば私は、平成4年かな議員になったの。それから、20数年たつんですが、当時は、私らのころはこれ、平成3、4年の間に、ちょこり、ちょこりその1万からあるいは2万ぐらい上げて、ちょこちょこ。そして、現在の34万。合併しても瓜連の議員さん、いないのかな、那珂市の報酬に合せたんですが、それが当時ですよ。先輩方が、市民に理解を得られるというような状態で、毎年のように、あげたような記憶ですが、あります。

さて、今回、この特別委員会で議員、あるいは定数の問題なんです、私も議員の定数は削減と。まず、20名という考えを持っています。こないだも、大宮環境の視察に行ったんですが、太田がまだ、削減すんだなんていう話がでてるんですが、これ競争のように削減するということは、全体から言って、太田は広いですからね。大宮も人口は少ないけど、民意が反映できないんじゃないかと、山の方から太田、茨城県でも多いほうでしょ、太田も大宮も、それでまた削減すんだというような話が出ているらしいんですが、やはりこれ、別に木村さんを援護するわけでも何でもないんですが、民意が反映できないから20人がいいんじゃないかと、20人くらいが。そうすると、やはり少なくすれば少なくなるほど、その何人かの意見に左右され、あるいは常任委員会を充実した政策を審議するって今、3つで18も、16にもなれば委員会がまだ幅広く、なんですか、守備範囲が広がるということで、ほかは、太田が18にしようと、今回、話題に出てるらしいですけど。20人で、報酬はアップ。じゃ、アップ幾らかというと、やはり市民の理解を得られるのが、さっき言った、石川委員が言った、3万4、5千円のアップかなというような意見でございます。前回はそうだけど、太田が下げた、大宮が下げたっちゃ、私が議長の時かな。審議会やったのね、じゃ22人にしようということで、1発で。議員提案のような形で、現在



の助川議長がおりましたが、助川さんそういうふうにということで、全員賛成なんだけど。これ減らすばかりが能じゃないし、だからといって、今、アップが、報酬アップが5万円が大体多いようですが、意見が。現状維持の方もおりましたが、いずれにしろ、公聴会が予定しておりますので、公聴会が終わってから、公聴会で、いや議員報酬もっと増やせという意見があれば、何も3万4,000円じゃなく、7万も8万も上げる場合もあるし、じゃ下げろといっても、これはやはり議員は議員の考えがありますので、とにかく公聴会が終わってから、意見の集約をしたいと思いますので、どうでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

委員長 異議なしという声がありましたので、継続調査ということに決定をしたいと思います。

以上で、議員定数等調査特別委員会を閉会いたします。

大変、長い間ごくろう様でした。

閉会の宣告（午前11時26分）

平成26年11月5日

那珂市議会 議員定数等調査特別委員会委員長 加藤 直行